

第3回 ゼロメートル地帯の命を守る防災対策検討会

日時：令和8年1月29日(木) 10:00~12:00

場所：さいたま新都心合同庁舎2号館16階 河川部会議室（オンライン併用）

議事概要（主な意見）【案】

1. ゼロメートル地帯の命を守る防災対策（案）

<資料-2 2. について>

- 江東デルタの中でも、広域避難に困難が伴う地域で浸水継続時間3日未満となるような高い効果がでており、本検討の排水対策が実現することに期待。
- 災害時には、各施設が支障なく排水を行うことができるかが懸念される。このため、どの施設から排水を実施することが効果的であるかを踏まえ、排水の優先順位を検討する必要もある。
- 災害時の排水施設の稼働タイミング等について、河川管理者と連携していきたい。
- 扇橋閘門は、船舶の航行を目的とした平時の施設であり、ゲートの同時操作を可能とする改良はヒューマンエラーを誘発しかねないため、災害時の氾濫水排水にあたっては、施設改良によらない対応を考えるべき。
⇒ヒューマンエラー等の平常時における安全性の課題はあるが、セキュリティ解除方法の複雑化等、システムの工夫による可能性も検討するとよい。
- 災害時には通信が途絶するなど様々な状況が想定されるため、そのような場合にどのような手段で情報伝達や連絡を行うのかについても、今後検討していく必要がある。
- 避難行動を検討するうえで、浸水の継続時間は重要な要素である。今後、広域避難者数の見直しにつなげるためには、本検討で示したような排水対策の実効性が確保され、浸水継続時間が短縮されたことが浸水想定区域図等で示される必要があると考える。
- 将来的には、今回の検討による排水効果や、排水により避難経路の確保が可能となる等の付加価値を踏まえたB/Cを考慮し、既存施設の改良・改善に係る検討をするとよい。

<資料-2 4. について>

- 浸水状況を把握する手法としては、ドローンの活用が考えられるほか、浸水域内に所在する公的機関の建物にいる職員から聞き取りを行い、その情報を活用することも避難には重要である。そのため、平時から協力を得られる機関を整理しておくことも考えられる。
- 浸水域の時系列情報は、関係機関での共有にとどまらず、地域住民の避難にも有用な情報であることから、周知・啓発に使用していくことが重要である。
- 大規模水害の避難時には、内水による浸水が想定されることから、内外水一体の時系列情報を情報提供していくことが必要である。
- 住民への分かりやすい情報提供として、危機管理型水位計やワンコイン浸水センサも考えられる。

<資料-2 5. について>

○高台まちづくりなど、住まい方の工夫に関する取組も重要である。

<全般>

○本検討会の内容について、具体的な運用をどのようにするかなど、実行（効）性を高めていくことが、引き続き重要であり、次のフェーズで考えていきたい。

○〔対策5〕における「前進配置」という用語について、従来からの運用との混同を避けるため、本検討会でのとりまとめにおいては、「特定配置」と用語を変更したいと考えている。